

健康保険で禁煙治療が受けられるようになって4年。禁煙治療に取り組む医療機関は全国で1万カ所を超えた。2009年には喫煙者の1%に当たる約25万人が禁煙治療を受けたと推定される。所定の3カ月5回受診を終えた人は9カ月後で49%が禁煙を続けていた。この検証結果は6月の中央社会保険医療協議会(中医協)に報告された。



H.22.8.12

# 禁煙治療 5回受診で 半数が禁煙継続



禁煙教育も効果的だ。治療で禁煙に成功した俳優の館ひろしさんが体験談で訴えた特別授業=6月17日、東京都文京区の村田女子高校

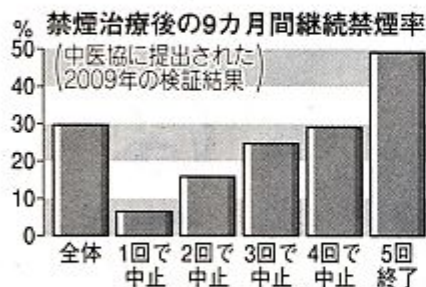
全国の喫煙者のうち約950人を05年から09年まで追跡調査した。禁煙を希望する喫煙者は毎年、半分以上いた。このうち、実際に禁煙を試みた人は09年の29%まで徐々に上がっていた。喫煙者は依存性が強く、自力でなかなかやめられない。禁煙を試みた喫煙者のうち、薬局で買える禁煙補助剤のニコチンパッチやガムを使った人が14%で、禁煙治療を利用したのは4%にすぎなかった。この禁煙治療の利用割合は英国の23%より低く、治療普及が課

## 試み

題として浮かび上がった。禁煙治療の実態は昨年7~9月に調査した。全国約700の医療機関で治療を受けた約3500人のニコチン依存症患者について分析。保険が使える禁煙治療の受診を5回完了できた人は3人に1人にとどまった。

## 回数

禁煙治療を受けた患者の治療終了後9カ月の禁煙継続率は全体で30%だった。英国の禁煙治療では1年間の継続禁煙率が18%と報告されており、「保険による日本の禁煙治療は一定の成果を挙げている。ほかのがん予防対策よりも経済的に優れている」と、調査した



## 年25万人が保険利用 ■ ■ ■ 健診と連携し働き掛けを

禁煙補助剤や治療で比較的楽により確実にやめられる

※中村正和・大阪府立健康科学センター部長による



中村正和・大阪府立健康科学センター部長は話す。受診回数で9カ月後の継続禁煙率を見ると、1回だけで中止した人は7%とごく低く、回数が増えるほど禁煙率は上がっていた。女性も男性よりやや禁煙しにくかった。ほかの要因を補正して解析したところ、高齢者ほど、喫煙本数が少ない人ほど、禁煙補助剤に内服薬を使った患者ほど、9カ月後の継続禁煙率が高かった。合併症別では精神疾患の喫煙者の継続禁煙率が低かった。

## 活用

岡山県の製造業の職場健診で医師が1、2分、喫煙

者に健康のための禁煙を勧め、禁煙外来などを紹介したところ、1年後の禁煙が1.5倍に増えた。中村部長は「健診で禁煙指導をして治療と連携することが重要と分かった。健診に喫煙者への禁煙指導を義務づけるべきだ」と提言する。中村部長は禁煙指導を特定健診に導入した場合の経済効果も分析。経費をかけたも6年後には黒字に転じると見込んだ。薬代などの自己負担はたばこ代より安く、喫煙者が金をかけずにやめられる利点も大きい。検証結果を基に、12の医学会は現在認められていない①未成年者②入院患者③1年以内の再治療④歯科領域などに保険適用を広げるよう要望している。今年10月からたばこ税の引き上げに伴って20本入り1箱が3000円から410~440円に大幅値上げされる。禁煙を試みる人が増え、禁煙支援の需要は高まる。中村部長は「治療を受ければ禁断症状を抑えて無理なく禁煙できる。多くの喫煙者が治療を気軽に受けたい」と話している。